

地域 ORC 第 1 研究班 2004 年度 第 1 回研究会記録 (簡略版)

日 時：2004 年 5 月 26 日 14:00 - 17:00

場 所：龍谷大学深草学舎 紫英館 第一共同研究室

出席者：足立裕一（京都市 財務局財務部 部長）

大西均（(株)日本能率協会コンサルティング行政評価アドバイザー）

木原勝彬（NPO 政策研究所 理事長）

白石克孝（龍谷大学 法学部 教授）

田中宏（龍谷大学 経済学部 教授）

広原盛明（NPO 法人 西山記念文庫 理事長）（50 音順）

配布資料：2004 年度の研究調査活動とアウトプットの方法について（レジュメ）

Local Strategic Partnerships Government guidance（冊子）

Bath & North East Somerset Local Strategic Partnership（組織図）

木原氏報告資料（志の森カリキュラム、新聞記事）

議 題：1．報告：2004 年度の調査・招聘、研究活動の年間予定について

2．議論：調査と分析の枠組みについて

3．議論：第 1 研究班のアウトプットの方法、形式について

1．報告：今年度の調査・招聘、研究活動の年間予定について（白石氏より報告）

■2004 年度調査・招聘

日	内容	発表者	備考
6月5日	(招聘) 英国の地域政策と地域人材	バーミンガム大学教授 Ken Spencer 氏 第3班研究員 小山善彦氏	兼第2回 研究会
7月中旬	(招聘を要請中で開催未定) リバプールの地域再生とEU構造基金、地域 戦略パートナーシップ(LSP)について	実務家、EUのコミッショナー、地域開発 エイジェンシーなどから2名(未定) 調整中	兼第3回 研究会
9月下旬 (4~5日間)	(海外現地調査) ドイツあるいはデンマーク 環境政策のパートナーシップについて		
11月8、9日 10日	オランダ国際シンポジウム &エクスカーション	調整中(第1班研究員 Peter Knip 氏)	
12月	(招聘)ドイツのハム市とミュンスター市 環繫事例で毎大都市から行政職員とNPO	未定	
2005年2 月後半	(調査 or 招聘) アメリカの地域政策	未定	

9月と2月の海外調査については、今年度の旅費の総枠の中で実施を決定しなければならないため、オランダ国際シンポの総予算が明確にならないと、実施の有無、規模などを決定することができない。

オランダシンポ・エクスカーション（事例調査）参加予定者（5/26 現在）

白石、広原、新川、木原

■2004 年度国内調査

今年度は班でまとまった調査は組まない。研究員が個人的に実施している企画に参加し、議論の行うこととする。個人研究と LORC に重なる調査研究の費用については、今まで通り LORC に請求とすることが確認された。

■班研究会予定

研究会	開催日	内 容	備 考
第1回	5月26日(水) 14:00~	2004 年度研究計画、研究活動の詳細	
第2回	6月5日(土) 10:30~班会議 13:00~講演会	2004 年度研究計画、研究活動の詳細 英国事例の評価 海外招聘スピーカーによる発表と討議	
第3回 (予定)	7月第中旬	リバプールの地域再生について 海外招聘スピーカーによる発表と討議	
第4回 (予定)	国際シンポ終了後 (11/10以降)	未定	
第5回 (予定)	12月	年次事業報告について	

会議の結果、国際シンポ終了後（11/10以降）開催予定の研究会の内容は、「年次報告書について」に決定した。

2．議論：調査と分析枠組みについて

白石氏より、2004 年から 2 年間の事例研究ならびに分析枠組みの研究についての説明が行われた。また 2004 年度の海外調査・招聘としてイギリス、ドイツ、デンマーク、アメリカが選定されている理由が述べられた。そしてローカルガバナンスについてイギリスが一番積極的であると述べられ、近年のイギリス・アメリカの政策の動向と現在イギリスで実施されている Local Strategic Partnership と Local Compact の内容が解説された。

今年度の海外事例研究については、英・米の比較をする中で、どのような参加やパートナーシップモデルを描くのがよいかという方向性で資料収集を行い、これを班内の共通認識とした上で、各研究員がそれぞれの専門分野で研究を進める。全体部分については白石氏、新川氏が行い、各論部分は各研究員が行う。

国内事例調査については、各研究員から研究の方向性、分析方法、事例選定方法に対する多くの意見が出された。調査活動については、今年度は研究員が個人的に実施している企画に参加し、議論の行うこととすることの方針であり、各研究員から提出されたワーキングペーパーを議論し、調査内容、調査地、分析方法を決定することが確認された。

3．議論：第 1 研究班のアウトプットの方法、形式について

各自ワーキングペーパーを提出し、各研究員の問題意識を共有、議論を行う。

その他

今年度より海外研究員に対する研究の動向等、情報提供を積極的に行うこととする

以上